

# かけはし

会報 83 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:東條 裕志  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



## ご挨拶～法律改正の活用～

NPO法人全国LD親の会  
 理事長 東條 裕志

平成 28 年 6 月 18 日に行われた特定非営利活動法人全国 LD 親の会の総会で、平成 27 年度の事業報告及び決算報告、平成 28 年度の役員選任が承認されました。

平成 27 年度から助成金に頼らず自主財源での運営を行うことになりましたが、評議員会の回数の削減やブロック会議の旅費の削減などを行った結果、全国 LD 親の会の事業の継続の目途はつきました。しかし、会議を削減する等の手法は、長期的に見て全国 LD 親の会の全体の活力を低下させる危険性があるので、今後、自主財源を増やすため、全国 LD 親の会の会員数を増やす等の活動が重要だと思います。

さて、総会でも話題としましたが、発達障害のある人を取り巻く環境は着実に進んできています。

「障害者差別解消法」が平成 28 年 4 月 1 日に施行され、「差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮不提供の禁止」がうたわれました。この中で、「合理的配慮」は具体的に配慮してもらいたいことを「個別」に依頼して相互に了解する必要があります。何もしないで自動的に受けられるものではないことに、注意してください。

また、「改正発達障害者支援法」が平成 28 年 6 月 3 日に公布されました。超党派の国会議員で構成される「発達

障害の支援を考える議員連盟」が専門家や親の会等の意見を取り入れた法案を提出し成立したものです。

改正法には、目的に「切れ目ない支援」「基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい生活を営むこと」がはいる、障害者の定義を『社会的障壁』により生活に制限を受けるもの」と明記し、基本理念に発達障害の支援は「他の人々と共生することを妨げられない」「『社会的障壁』の除去に資する」「個々の発達障害者の障害の状態及び生活の実態に応じて行う」と明記されました。未だ、発達障害はみんな同じと思っている人が多いことに対しても、「個々の」「障害の状態に応じ」という言葉を各所で追記しています。発達障害者の家族の支援についても、相談・助言だけでなく、「発達障害者の家族が互いに支え合うための活動の支援」という言葉が入りました。

このように改正には親の意見が大きく取り入れられましたが、この改正法がどれだけ活用されるかも、やはり私たちのこれからの活動にかかっています。多くの人に法律の趣旨を知ってもらうために、いろいろな場面でこの法律の趣旨(共生する社会の実現)について話をしていきます。私たちの行動で子どもたちの未来が広がります。

### 特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長 : 東條裕志  
 副理事長 : 井上育世、多久島睦美  
 理事 : 梅野真澄  
 評議員 : 上中雅史、大島善江、小川るみ子、小倉広光  
 梶山幸子、斗内沢邦男、水越由起恵

### 特定非営利活動法人全国 LD 親の会 第 9 回総会報告

日時:平成 28 年 6 月 18 日(土) 13:00-14:20

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟 研修室 401 号

総数 46 加盟団体中、代表者出席 27 団体、委任状提出 18 団体の計 45 団体の参加の中、第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第1号議案 平成 27 年度事業報告  
 第2号議案 平成 27 年度決算報告および監査報告  
 第3号議案 平成 28 年度役員選任

## 研修会報告

日時:2016年6月18日(土) 15:00~16:40  
 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター  
 センター棟 401 研修室  
 テーマ:「障害者の就労環境調整の視点について」  
 講師:三宅 琢 氏

(東京大学先端科学技術研究センター 人間支援  
 工学 特任研究員・株式会社 Studio Gift Hands  
 代表取締役・眼科医・産業医)

参加者: 70名

講師の三宅先生は眼科医・産業医として、視覚障害がある方へのテクノロジーを使ったケアや就労環境の改善に取り組まれています。先生のご講演は「失明した方を医学の力では治すことはできないが、スマホを使えば(点字を学ばなくても)本が読めるようになる。支援のスピード感が本人の意欲に繋がる。」というお話から始まりました。

「障害があっても『彼らにしかできないこと』がある。彼らの強みを生かせば、障害を価値に変えることができる(特



性を生かす  
 =バリアバ  
 リューとい  
 う価値観)。  
 「障害は個  
 人の中にあ  
 るのではなく、環境の中にある。

環境を調整すれば、ずっと働きやすくなる。例えば、障害のある人が分かりやすい指示書を作れば、職場の全員が間違えなくなる。障害のある人を“普通のやり方”に合うよう治すのではなく、環境を工夫していくことが大切。障害のある人から学び、一般化すれば、すべての人のメンタルケアに有効。」

「何ができたら、うまく行くのか? 苦なくできることは何か? ニーズを突きつめ、彼らの強み・困難さを可視化し、本人の気づきを促していく。」「やらせるのではなく、やりたいことを見つけてあげて。本人が『これならできるかも!』と思える、可能性の情報(光)を示して下さい。」との言葉が、親としてたいへん心に響きました。

(多久島)

### 東大先端研のプロジェクトのご紹介

AccessReading(アクセス・リーディング)

<http://accessreading.org/>

教科書等のデータを読みこむに困難がある人向けに無償提供しています。

## 青年の交流会報告

2016年6月18日(土)オリンピック記念青少年総合センターへ全国各地より23名の参加者が集合し、青年の交流会がスタートしました。まず、ボランティアの山中さん・横山さんのリードで、アイスブレイクの室内ゲーム①誕生日で並ぼう ②自己紹介ビンゴを行いました。みんながリラックスしたところで、今回の目的地である上野の国立科学博物館へ移動。

国立科学博物館は昨年の秋に完全リニューアルが終わり、地球の生命の始まりから宇宙まで様々な展示があり、遊び・学べる場所です。実物大のティラノサウルスとトリケラトプス、恐竜界の2大スターが向かい合う迫力ある展示を観たり、地球における様々な進化について科博ボランティアの説明で学んだりしました。昆虫・哺乳類等の標本やはく製、物理的な展示など興味深いものが多く、あっという間に閉館時間の5時になってしまいました。

その後、大崎で行った懇親会では、食べ放題のおいしいビュッフェを楽しみながら、科博の話や生活の話をして8時半に解散しました。つかの間の出会いでしたが、またの日を約束してそれぞれの家路をたどりました。(栗野)

## 懇親会報告

18日(土)の総会・研修会後に、国立オリンピック記念青少年総合センター内で懇親会が開かれました。

会場となったレストランさくらは、新宿副都心が一望できる眺めのいい9階にあり、まだ夕陽の残る明るさの中、東條理事長あいさつと総会の無事終了を祝した乾杯の後、46名の全国各地から集った仲間同士、お料理やドリンクを頂きながら親睦を深めました。間断なくワイワイガヤガヤとにぎやかに盛り上がり、あっという間に終了時間が来たように感じられた楽しい懇親会でした。

途中、南は九州から北は北海道まで、順に全国各地の参加者による各会紹介・あいさつがありました。地域の状況もさまざま、参加メンバーもさまざまに、それぞれの個性あふれる会の活動や雰囲気を感じられました。現状やこれからについての模索や迷いもありつつ、でも、会のことを大事に思って前に進もうとしているのだなあと、それぞれの想いや熱意を感じるスピーチでした。

各地域で活動している親の会では、共通の課題ばかりでなく個別の課題もあり、さまざまな苦労や悩みもつきものです。こうした交流の場で各会、親同士、仲間同士の関わりあいを通して、お互いに日頃の活動をねぎらったり、気持ちをリフレッシュしたりと、仲間から力をもらう機会となっていることは間違いありません。

来年も元気で会いましょう!

(大島)

**第15回 全国LD親の会フォーラム  
「発達障害者の就労支援の課題と合理的  
配慮～安定して働き続けていくために」**

日時:2016年6月19日(日) 9:40～16:30

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟 311室

参加人数:145名(一般37名、保護者・その他108名)

発達障害のある人が継続して働き、安定して生活していくために必要なことは何か、職場における合理的配慮をどう構築していけばよいのか。今回のフォーラムでは、発達障害者の就労および就労定着における課題を考えるため、発達障害者の雇用を支援されている機関や発達障害者を雇用されている方々に登壇をお願いしました。

**【基調講演】「発達障害者の就労と就労継続の課題**

…働いて自立する生活を実現するために…」

望月 葉子氏(独立行政法人高齢・障害・求職者  
雇用支援機構 障害者職業総合センター特別研究員)



障害を開示して一般扱いで就職した場合、開示せず一般扱いで就職した場合、障害

者雇用で就職した場合の事例を通して就職に対する考え方、事業所の支援内容とその結果を具体的にご紹介いただきました。若年者就職基礎能力支援事業(YES-プログラム)で示された「企業が若者に求める就職基礎能力」をもとに障害を開示して理解と配慮を求めるべきかを判断する考え方は非常に分かりやすく納得できる内容でした。

**【行政解説】「発達障害のある方に対する就労支援策と合理的配慮」**

田中 歩氏(厚生労働省職業安定局雇用開発部  
障害者雇用対策課地域就労支援室室長)

障害者雇用の現状として民間企業の障害者雇用が進んでいることを、雇用者数の推移や企業規模別の雇用率などの数値をもとに解説いただきました。発達障害のある人に対する就労支援策のひとつである若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラムは、平成25年度から全都道府県で利用できるようになり、年々利用者が増えているそうです。改正障害者雇用促進法では障害者差別禁止

指針と合理的配慮指針を策定し、Q&Aと事例集が作成されました。事例は「障害者雇用事例リファレンスサービス」(<http://www.ref.jeed.or.jp>)で業種、障害別に参照できます。

**【パネルディスカッション】**

「発達障害者が安定して働くために必要なこと」

モデレーター 松為 信雄氏(文京学院大学)

シンポジスト 伏見 明氏(東京都教育庁指導部  
特別支援教育指導課長)

井口 修一氏(独立行政法人高齢・  
障害・求職者雇用支援機構東京支部  
東京障害者職業センター所長)

堀江 美里氏(NPO法人WEL'S  
新木場 障害者就業・生活支援  
センター所長)

川地 政明氏(コマツ 人事部ビジネス  
クリエーションセンタ主幹)

シンポジストの方々に話題提供をいただいたのち、参加者からの質問にお答えいただきました。

Q: 学校から企業に情報を伝えることによる影響を懸念して、親が拒否することがあるのではないかと。企業側では必要な情報をどのように引き出すのか。

A: 障害者雇用枠で就職するかどうかで大きく異なる。就職先への申し送りを親に伝えても、親からは言い出しにくいのが現状となっている。

コマツでは作業時チェックリストを使って手帳の有無、過去の病歴や服薬歴を確認している。

合理的配慮を受けるには本人の申し出が必要であるため本人の自己理解と配慮を受ける姿勢が必要となる。支援者が採用面接に同席して本人が説明したあとで補足することもある。

Q: ハローワークで知る内容と実際の業務内容が違っていてトラブルになることや、就職するまで実際の仕事分からないことはないか。

A: 会社に見学と体験を求めており、断られる場合はエントリーをせずにトラブルに繋がらないようにしている。

特別支援学校では実習を受けて成果を見てから内定が出る。教員が実習先で業務内容を確認したり、できる作業を説明したりする。

Q: 大学3年の子どもに対して早めに就職の準備をしたいがハローワークでは学生は対象外と言われる。どこに相談すればよいか。

A: 数は多くないが大学生がアセスメントを受けられるところもある。若者サポートステーションのほうが本人にとっては行きやすいかもしれない。カウンセラーとのやり取りによって自己理解が深まることもある。(小倉)

全国会員の子どもの構成調査

(正会員 46 団体の集計)

<総括表>

区分	人 数				男女比		
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	30	15	45	1.6%	50.0%	66.7%	33.3%
小学校	429	107	536	18.7%	-2.7%	80.0%	20.0%
中学校	387	95	482	16.8%	-4.4%	80.3%	19.7%
高校相当	345	104	449	15.7%	-6.8%	76.8%	23.2%
高卒相当	1,077	276	1,353	47.2%	0.7%	79.6%	20.4%
合計	2,268	597	2,865	100.0%	-1.5%	79.2%	20.8%

<小学校>

区分	男	女	計
小1	30	9	39
小2	54	13	67
小3	78	17	95
小4	69	19	88
小5	95	21	116
小6	103	28	131
計	429	107	536

<中学校>

区分	男	女	計
中1	113	24	137
中2	121	33	154
中3	153	38	191
その他	0	0	0
計	387	95	482

<高校相当>

区分	男	女	計
高1 (高専1年)	103	26	129
高2 (高専2年)	96	35	131
高3 (高専3年)	121	33	154
単位制高校	21	8	29
その他	2	2	4
就労・在宅等	2	0	2
高校相当計	345	104	449

<高校卒業相当以上>

区分	男	女	計
大学・短大	137	26	163
高等専門学校4年～	4	0	4
特別支援学校専攻科	0	0	0
専門学校	55	23	78
就労(一般)(週20h以上)	157	24	181
就労(障害枠)(週20h以上)	313	74	387
就労(一般)(週20h未満)	19	6	25
就労(障害枠)(週20h未満)	15	10	25
職業訓練校・委託訓練	15	4	19
就労移行支援	52	9	61
就労継続支援 A型	34	13	47
就労継続支援 B型	80	17	97
授産・作業所	14	5	19
その他(高校在学)	26	9	35
在宅	101	39	140
不明	55	17	72
高校卒業相当計	1,077	276	1,353

<小学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	194	36.2%	4.9%
普通級(通級利用有り)	113	21.1%	14.1%
特別支援学級	184	34.3%	-17.9%
特別支援学校	8	1.5%	-27.3%
その他・不明	37	6.9%	76.2%
計	536	100.0%	-0.7%

<中学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	212	44.0%	-1.4%
普通級(通級利用有り)	51	10.6%	-25.0%
特別支援学級	171	35.5%	-0.6%
特別支援学校	13	2.7%	-35.0%
フリースクール等	0	0.0%	-100.0%
その他	1	0.2%	-87.5%
不明	34	7.1%	240.0%
計	482	100.0%	-3.2%

< 高校生の状況 >

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制		
普通科	63	11	5	95	2	27	10	3	4	14	0	22	256	53.4%
専門学科 (商業・工業・農業等)	21	0	0	14	0	0	1	1	0	1	0	0	38	7.9%
総合学科	6	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	10	2.1%
高等専門学校 (1~3年)	0			3									3	0.6%
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	81	0	0	1	0	0							82	17.1%
高等専修学校	2	0	0	19	0	0							21	4.4%
専門学校	0	0	0	1	0	0							1	0.2%
フリースクール													0	0.0%
その他													7	1.5%
不明													31	6.5%
計	173	11	5	136	2	27	12	4	4	15	0	22	449	93.7%

	人数	比率
国・公立	209	50.9%
私立	202	49.1%

	人数	比率
単位制以外	354	86.1%
単位制	57	13.9%

	人数	比率
全日制	336	81.8%
定時制	17	4.1%
通信制	58	14.1%

一般社団法人 日本LD学会第25回大会(東京) 開催のお知らせ

日時：2016年11月19日(土)～20日(日)  
 場所：パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい)  
 大会テーマ：発達障害の子どもと家族  
 ー学習・行動・心の包括的理解と支援ー  
 大会長：国立大学法人 お茶の水女子大学 篁 倫子  
 申し込み:大会ホームページからの事前申し込みは8月末で終了しました。当日会場の「親の会受付」で手続き後ご参加下さい。  
 ○プレコンgress:11月18日(金) 18:30～20:30  
 「今だからわかる・・・本当に必要な支援とは」というテーマで当事者・保護者・支援者のシンポジウムが一般公開されます(参加費無料)。

●全国LD親の会企画シンポジウム  
 テーマ：保護者との連携  
 ～合理的配慮をともに考える関係作り～  
 日時:11月19日(土) 16:00～17:30  
 会場:413  
 司会:東條裕志(NPO法人全国LD親の会)  
 話題提供:山田充(堺市立日置荘小学校通級指導教室)  
 話題提供:井上育世(NPO法人全国LD親の会)  
 指定討論:梅田真理(宮城学院女子大学)

発達障害の子どもと家族への支援として、教育と医療・福祉・保健・労働等との連携を図るには、子どもの状況とともに考えていける保護者との関係性の構築が大きなポイントとなります。一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定される「合理的配慮」の内容についても、ともに考えていける保護者との関係作りについて考えます。

●親の会ポスター展示  
 各会の様子をポスターにして展示するコーナーを今回も設けることになりました。模造紙1枚(788mm×1091mm)の大きさで、各会の特色ある活動をご紹介します。  
 申し込みはパネル準備のため、既に締め切らせていただきました。多数会のエントリーありがとうございました。会場へのポスター搬入、撤収にご協力をお願いします。  
 (担当:東京「けやき」)

●親の会 懇親会  
 日時:11月19日(土)18:30～  
 会場:中華レストラン「福琳酒家」  
 11月3日までに各会で参加希望者を取りまとめてお申し込みください。楽しいひと時をともにして、一層の親睦を深めたいと願っています。(担当:神奈川「にじの会」)



## サポートツール全国キャラバン

### 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

#### ●2015年度研修会のご報告

#### サポートツール全国キャラバン 2015 in 名古屋 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりの ニーズに応じた指導・支援の具体的方法」の開催

- \*日時: 2016年1月10日(日) 10:00~16:30
- \*会場: 名古屋市高齢者就業支援センター5階大会議室
- \*参加者数: 一般85名 会員9名 合計94名
- \*主催: NPO 法人全国LD親の会
- \*共催: あいちLD親の会かたつむり・あいち発達障害者支援センター・名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋
- \*後援: 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・一般社団法人日本LD学会・一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人愛知県作業療法士会・日本感覚統合学会・愛知特別支援教育研究会・発達OTネットワーク@ASI
- \*プログラム
- 講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方が変わる教材の有効性～  
講師: 山田充氏  
(特別支援教育士スーパーバイザー)
- 講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！  
～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～」  
講師: 丹葉寛之氏  
(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表)

講演1では、山田先生から問題行動への対応や学習支援について、具体的な事例を交え、アセスメントの重要性と指導法を具体的に分かりやすくお話いただきました。講演2では、丹葉先生に作業療法士の立場から、姿勢の保持などについて、子どもの困難さの背景や要因、具体的な手立て(工夫)について説明していただきました。

続いてワークショップでは、実際のお子さんのビデオ・答案などの資料をもとに、様々な立場の参加者が課題や支援方法について、グループで積極的に意見交換をしました。グループごとに発表後、先生方から専門的で具体的な支援方法のアドバイスをいただき、支援者・保護者それぞれにとって大変有意義な研修会になりました。

「子どもの状態や困難さの原因を分析(アセスメント)することの重要性を認識した。」「具体的な支援方法や教材もたくさん知ることが出来、今後、実践してみたい。」「いろいろな視点から多角的な意見が出され、とても勉強になった。」「子どもの実態からどんな手立てをするのか、一人で

はなくグループ(チーム)を作って計画を立てていく大切さを学んだ。」など、積極的な感想を多数いただきました。  
(多久島)

#### ●2016年度研修会のご案内

#### サポートツール全国キャラバン 2016 in 岡崎 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりの ニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

- \*日時: 2016年9月19日(月・祝) 10:00~16:30
  - \*会場: 岡崎市西部地域交流センター・やはぎかん
  - \*参加費: 一般 1,500円 (全国LD親の会会員1,000円)
  - \*定員: 150名
  - \*主催: NPO 法人全国LD親の会
  - \*共催: あいちLD親の会かたつむり・あいち発達障害者支援センター・名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋
  - \*後援: 愛知県教育委員会・岡崎市教育委員会・一般社団法人日本LD学会・愛知特別支援教育研究会・一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人愛知県作業療法士会・日本感覚統合学会・発達OTネットワーク@ASI
  - \*プログラム
  - 講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方が変わる教材の有効性～  
講師: 山田充氏
  - 講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！  
～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～」  
講師: 丹葉寛之氏
- (本講座は定員に達しましたので、既に申し込みを締め切っています。)

#### サポートツール全国キャラバン 2016 in 鳥取 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりの ニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

- \*日時: 2017年2月19日(日)
  - \*会場: 鳥取ふれあい会館5階講義室
  - \*定員: 120名
  - \*主催: NPO 法人全国LD親の会
  - \*共催: 困り感を抱える子を支援する親の会/らっきょうの花
- 申し込み方法等、詳細につきましては全国LD親の会HPにてお知らせします。

## 特別支援教育支援員養成事業

毎年、特別支援教育支援員養成講座を開催していますが、大変多くの方からお申込みいただいています。2015年度は、特別支援教育支援員養成講座 in 大阪、ボランティア支援員養成講座 in 札幌、ボランティア支援員養成講座 in 北九州と、3か所で講座を開催することができました。

### ●2015年度報告

#### ボランティア支援員養成講座 in 北九州

- ◆日程:2016年1月10日(日)、11日(月・祝)
- ◆会場:西日本工業大学 小倉キャンパス 303 講義室
- ◆共催:北九州 LD 等発達障害親の会「すばる」
- ◆後援:福岡県教育委員会、北九州市教育委員会
- ◆コース:ボランティア支援員コース  
講習:2日間(10科目/12.5時間)
- ◆講師:特別支援教育士SVを中心とした有資格者8名
- ◆プログラム

第1日:2016年1月11日(土) 9:10~17:50

	科目
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 廣崎富士子氏(北九州市立小倉北特別支援学校)
2	特別支援教育概論 酒井 均氏(筑紫女学園大学)
3	主な障害の特性の理解 吉川 昌子氏(中村学園大学)
4	学校・学級での支援の仕方、担任との連携 樋口 陽子氏(北九州市立小倉南特別支援学校)
5	保護者への対応 大曲 千代子氏(北九州「すばる」)

第2日:2016年1月12日(日) 9:00~16:50

6	子どもへの対応の基本 苫廣 みさき氏(一般社団法人発達支援ルームまなび)
7	障がいのある子どもの心理 苫廣 みさき氏
8	子どもの特性と対応方法 1 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 日野 久美子氏(佐賀市立勸興小学校)
9	子どもの特性と対応方法 2 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 公文 眞由美氏(久留米市立南薫小学校)
10	ワーク・ロールプレー・グループ討議 日野 久美子氏・公文 眞由美氏

- ◆受講者:147名(修了147名)
- ◆受講生の属性
  - ・親の会会員18名(すばる、のこのこ、じゃんぷ)
  - ・一般129名(支援員・学童指導員31名、大学生3名、デイサービス支援員27名、教員・OT・PT等23名、保護者18名、子ども活動支援者16名、その他11名)
- ◆受講者の感想より
  - ・実際に使用している道具や工夫物を見せていただき、参考になった
  - ・家庭局から案内を頂いたので参加できました。学童保育は学校とも家庭とも違う場で、また施設の運営方針、職員のスキルも様々です。子どもへの支援を理解するよい機会になったと思います
  - ・参加者が熱心でお互いに情報交換できた。講座内でもそういう時間が欲しかった
  - ・今後、実践編のフォローアップ、学童に特化した講座など定期的に開催して頂きたい
  - ・多くの支援員や学童指導員のかたが熱心に受講されているのをみて希望を持ちました(保護者)。
- ◆講座受講満足度  
「とても満足している」85% 「やや満足している」15%

福岡県では平成25-26年度に福岡市、27年度には北九州市で開催しました。3年間連続開催したことで講座の認知度が上がり、参加者はこれまでで最多の147名となりました。今後は九州ブロックの他の地域での開催を検討していきたいと考えています。



### ●2016年度養成講座について 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

昨年度に引き続き、今年度も下記内容で特別支援教育支援員養成講座 in 大阪を開催します。定員を大きく上回るお申込みをいただきました。

- ◆日程:2016年8月27日(土)~10月29日(土)
- ◆会場:大阪府立男女共同参画・青少年センター
- ◆コース:
  - ・支援員コース[講習:5日間(20科目/28時間)]
  - ・学習支援員コース[講習:7日間(26科目/39時間)]
- ◆講師:特別支援教育士SV中心の有資格者15名

第1日:2016年8月27日(土) 9:50~16:20  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 竹田契一氏(大阪教育大学名誉教授)
2	特別支援教育支援員としての業務 大谷和夫氏(子育てサポートIdeCAT)
3	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷和夫氏(子育てサポートIdeCAT)
4	保護者への対応 井上育世(NPO法人全国LD親の会)

第2日:2016年8月28日(日) 9:30~16:10  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

5	主な障害の特性の理解(1) 知的、身体、視覚、聴覚 樋口一宗氏(兵庫教育大学大学院)
6	主な障害の特性の理解(2) LD、ADHD、自閉症、高機能広汎性発達障害 樋口一宗氏(兵庫教育大学大学院)
7	子どもへの対応の基本 苫廣みさき氏(一般社団法人発達支援ルームまなび)
8	障害のある子どもの心理 苫廣みさき氏(一般社団法人発達支援ルームまなび)

第3日:2016年9月10日(土) 9:30~16:40  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

9	ペアレント・トレーニングの視点(1) 米田和子氏(NPO法人ラヴィータ研究所・子ども発達相談センター・リソース「和」)
10	ペアレント・トレーニングの視点(2) 米田和子氏(NPO法人ラヴィータ研究所・子ども発達相談センター・リソース「和」)
11	子どもの特性と対応方法(A)-⑥ 聴覚障害 森田雅子氏(大阪市教育委員会指導部インクルーシブ教育推進室言語聴覚士)
12	子どもの特性と対応方法(A)-⑦ 視覚障害 松下幹夫氏(元大阪府立視覚支援学校指導教諭・歩行訓練士)

第4日:2016年9月11日(日) 9:30~16:40  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

13	子どもの特性と対応方法(A)-① 自立生活面の困難とサポート方法 松久眞実氏(プール学院大学)
----	---

14	子どもの特性と対応方法(A)-② 学校生活面での困難とサポート方法 松久眞実氏(プール学院大学)
15	子どもの特性と対応方法(A)-③ 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 伊丹昌一氏(梅花女子大学)
16	子どもの特性と対応方法(A)-④ 行動面の困難とサポート方法 ロールプレイング、グループ討議 伊丹昌一氏(梅花女子大学)

第5日:2016年10月22日(土) 9:30~16:20  
(支援員コース・学習支援員コース共通)

17	学校・学級での支援の仕方・担任との連携の仕方 小田浩伸氏(大阪大谷大学)
18	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 介護・介助の基礎、移動介助 小田浩伸氏(大阪大谷大学)
19	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 今村佐智子氏(一般社団法人発達支援ルームまなび、プール学院大学学生支援センター)
20	現役支援員からのレクチャー・ワーク
-	修了式(支援員コース)

第6日 2016年10月23日(日) 9:30~16:20  
(学習支援員コース)

21	学習面の困難とサポート方法 1 読み書きの困難とサポート方法 村井敏宏氏(奈良県平群町立平群小学校)
22	学習面の困難とサポート方法 2 言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 村井敏宏氏(奈良県平群町立平群小学校)
23	学習面の困難とサポート方法 3 算数の困難とサポート方法 ワーク 栗本奈緒子氏(大阪医科大学LDセンター)

第7日 2016年10月29日(土) 9:30~16:20  
(学習支援員コース)

24	子ども達に接するときのポイント 西岡有香氏(大阪医科大学LDセンター)
25	ロールプレイング、グループ討議 西岡有香氏(大阪医科大学LDセンター)
26	学習面の困難とサポート方法 4 教材・教具の利用方法 ワーク 山田充氏(堺市立日置荘小学校)
-	修了式(学習支援員コース)



## 平成29年度予算要望書を提出

平成29年度の予算編成について、4月26日付で文部科学大臣・厚生労働大臣あてに「平成29年度予算要望書」を提出しました。

### 平成29年度 文部科学省関係予算要望事項

#### <予算要望事項>

1. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進をはかること
  - ・合理的配慮を的確に行うための校内支援体制の整備
  - ・合理的配慮に関する相談窓口の明確化
2. 教員の専門性の向上、教員への支援体制を整備すること
3. 発達障害のある児童・生徒に対する個別の教育支援計画の作成・活用・引継ぎを義務付けすること
4. LD、ADHDを対象とした通級教室の拡充
5. 学習上の支援機器等教材の活用促進
  - ・学習上の困難を軽減するための、支援機器等教材の開発促進
6. 早期からの教育相談・支援体制を整備すること
7. 後期中等教育における発達障害のある生徒に対する支援体制を強化すること
8. 大学等の高等教育における発達障害のある学生に対する支援体制を整備すること
  - ・発達障害のある学生に対する自立・社会参加に向けたキャリア教育、就労支援体制の整備と充実
9. 学校外の人材・資源・資格等の活用を推進すること
  - ・特別支援教育支援員の配置拡充、資質確保・研修の充実、体制整備による支援の充実
10. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策を整備・周知すること

#### <中長期的な要望>

1. 特別支援教室構想について、インクルーシブ教育システム構築の中で検討を行うこと
2. 学習面の困難に対する取り組みを強化すること
  - ・教科学習についての指導・支援方法に関する研究の推進
3. LD、ディスレクシア等の視覚認知等に困難を持つ発達障害者が、個々の特性に合わせ多様な手段・手法・技術によりバリアフリー化された図書や教科書が無償かつ容易に利用できるよう、各種の支援手段・技術の開発、普及に取り組むこと
4. 発達障害に対する社会的理解の向上に取り組むこと
  - ・一般の児童・生徒の理解啓発、PTA活動等を利用した一般保護者向け啓発活動の推進

### 平成29年度 厚生労働省関係予算要望事項

#### 【厚生関係】

#### <予算要望事項>

1. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
  - ・早期発見・早期発達支援事業の拡充(療育機関の増設、二次障害の予防・改善)
2. 発達障害者支援センター事業を拡充すること(地域支援機能の強化)
3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
4. 発達障害者に対する情報支援体制の整備を拡充すること(意思疎通支援・合理的配慮の提供)
5. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策の整備・周知
6. 発達障害に対する理解、啓発を促進すること
  - ・国民全般の障害に対する理解を促進すること(差別・社会的偏見をなくす)

#### <中長期的な要望>

1. 発達障害をふくめ、障害者の所得保障制度を拡充すること
2. 長期的な展望に立った発達障害支援の専門的人材の育成と、専門職の位置づけを明確化すること

#### 【労働関係】

#### <予算要望事項>

1. 地域障害者職業センターにおいて、障害者手帳を保持していない発達障害者について、雇用対策上の「判定」の導入を進めること
2. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
3. 地域における障害者の職業能力開発および職業訓練を強化すること
4. 発達障害者の雇用を促進すること
5. 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
6. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
7. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること
8. 継続して働き続けるための支援を充実すること

#### <中長期的な要望>

1. 労働・雇用分野での障害を理由とする差別の禁止、職場における合理的配慮の提供を確保するため、発達障害の特性を考慮に入れ必要な措置を推進すること
2. 発達障害をふくめ、障害者の賃金水準を向上させること

## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) より

日本発達障害ネットワーク(JDDnet)は、発達障害の「センターオブセンター」の機能を担っています。具体的に言えば、各党・議員連盟や各省庁、マスコミ等が発達障害について意見を求める際に、まずJDDnetに声をかけることが多いのです。もちろん、発達障害者支援法の改正や障害者差別解消法の合理的配慮についてのヒアリングには、全国LD親の会も参加して意見を述べてきたのですが、1団体だけの場合は、JDDnetが代表して意見を伝えることが多いのです。様々な会議に参加を要請されるため、2016年度から、理事長の他に副理事長を7名(在京3名)とし、正副理事長計8名の体制にしました。

全国LD親の会は、単独で文部科学省や厚生労働省に予算要望書を提出していますが、他団体と合わせて要望するため、JDDnetにも文部科学省や厚生労働省宛の要望を出しています。

JDDnetが2016年度から正式に行う事業が「認証事業」です。現在、放課後等デイサービスを行う事業所が各地にたくさんできています。障害のある子どもを放課後等に預かってくれるサービスなのですが、障害についての知識無しに参入する業者も多いようです。JDDnetが始める認証事業は、これらの事業者が「発達障害を理解して対

応できるか」について認定基準を決めて実施します。また従業員向けの講習用教材を作って研修を行い、支援者の資質を高めることも行います。2016年度は、東京を中心に開始し、順次、全国に展開する予定です。

もう一つ、JDDnetが昨年度から力を入れているのが、地方組織「都道府県ネットワーク」との連携です。これまで「JDDnet〇〇(〇〇は都道府県名)」の設立を進めてきましたが、その位置づけがはっきりしていませんでした。今後のJDDnetの活動を強化するために、「都道府県ネットワーク:JDDnet〇〇」の位置づけを明確にし、「JDDnet〇〇」がある地域でセミナーなどを実施していきます。(2016年度は長野、鹿児島、福井)

JDDnetの活動の中で、発達障害に対する理解啓発活動は最重要課題のひとつです。理解啓発を全国的に進めていくためにも「JDDnet〇〇」を各地で立ち上げ、連携していくことを目指しています。最近では、職能団体も他の職能団体との連携に力を入れていますので、親の会だけで「JDDnet〇〇」を立ち上げるよりハードルが下がってきているようです。興味のある会は、JDDnetにご連絡ください。活動の幅が広がるかもしれません。

(東條)

## 全国特別支援教育推進連盟 より

「全国特別支援教育推進連盟」は、特別支援教育の振興と更なる充実を求め、加盟団体が連携し活動しています。加盟団体は、全国特別支援学校長会、全国特別支援学級設置学校長協会、全国盲学校PTA連合会、全国聾学校PTA連合会、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会、日本肢体不自由児協会、全国肢体不自由児・者父母の会連合会、全国重症心身障害児(者)を守る会、全国視覚障害児(者)親の会、全国聴覚障害者親の会連合会、全国病弱・障害児の教育推進連合会、盲ろうの子とその家族の会ふうわ、日本自閉症協会、全国手をつなぐ育成会連合会、全国病弱・障害児の教育推進連合会(日本てんかん協会、日本筋ジストロフィー協会、全国ことばを育む会、全国心臓病の子どもを守る会)、全国LD親の会の17団体です。全国LD親の会は、昨年度より、連盟の常任理事を務めています。(任期2年)

7月5日に第2回理事会が開催され、文科省特別支援教育課 専門官より、高等学校における通級による指導の導入(平成30年度から制度化の予定)について説明が

ありました。あわせて、共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築のため、特別支援教育の新たな方向性も示されました。

また、推進連盟では毎年、加盟団体の要望事項を集約し、文部科学省・厚生労働省に要望書を提出しています。理事会でも、各団体の要望事項のポイントについて、情報交換を行いました。

### ☆☆今年度の事業計画☆☆

- ① 第39回全国特別支援教育振興協議会の開催  
平成28年12月2日(金)  
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ② 特別支援教育コーディネーター養成講座の開催  
応用コース 平成28年7月27(水)・28日(木)  
専門コース 平成28年8月4(木)・5日(金)
- ③ 理解啓発冊子・書籍の発行

今年度から「障害者差別解消法」の施行により、合理的配慮が義務化されました。障害への差別・偏見がなくなるよう、当事者団体の役割はますます大きくなっています。全国LD親の会も他団体と連携を深め、発達障害への理解・支援がいつそう進むよう努めてまいります。(多久島)

## 東京東部「学び方の違う子の親の会 ルピナス」設立総会 & 記念講演会

### \*\*\*ルピナス記念講演会\*\*\*

発達が気になる子どもたちの支援教育を考える

—新しい特別支援教育の展開のなかで—

日 時:2016年2月20日(土) 14時~16時

会 場:タワーホール船堀 (東京江戸川区船堀)

講 師:上野一彦先生

事前申し込みではキャンセル待ちもあり、会場は満席に近い77名の参加と大変盛況でした。全国LD親の会事務局はじめ東京の親の会「けやき」と「にんじん村」からもお手伝いとして参加して頂きました。

上野先生は東京に3つめの親の会が生まれようとしていることを喜んでくださり、講師を快く引き受けてくださいました。上野先生の力強い具体的な内容のお話を聴いた参加者の皆さんは感激され、多くの気づきを持ち帰られました。設立総会に向けて、ルピナスの皆さんの気持ちがさらにまとまったように感じました。



### ○ルピナス設立総会

3月27日(土)にタワーホール船堀にて、設立総会を行いました。会員16名のうち10名が出席し、会則、議案書、今年度活動計画、予算案を確認後、役員を拍手で承認しました。また今後講演会等にお呼びしたい先生、お薦めの病院、療育機関、通級利用や個別支援計画のお願いの仕方などについて話し合い、交流しました。同時に全国LD親の会の加盟手続きも完了しました。

### ○その後の活動

4月16日茶話会、5月14日ルピナス勉強会「保護者の体験談」、7月30日茶話会と着実に活動を進めています。また、今年度(6/18・19)の全国LD親の会総会・研修会・公開フォーラムに初めて出席された皆さんから次のような感想をお聞きしました。「ルピナスを温かく迎えてくださりありがとうございます。」「研修会が凄くためになった。」「就労のお話は初めてで、考えさせられた。困難はあるけれど、自己理解と障害理解を深めたい。」

フェイスブックでの情報発信や支援のIT機器を使いこなして、現代の新しいスタイルの親の会が誕生したことをまぶしく感じます。会員減少や役員世代交代が悩みという話を聞くなかで、本当に嬉しいことです。私たちも刺激を受けています。一緒に歩んで行きましょう。(梶山)

## 九州ブロック便り

**大分県発達支援親の会じゃんぷ「設立3年を振り返って」** 全国LD親の会のお力添えで空白県だった大分に親の会ができて3年が過ぎました。当初は活動も手探りで、大分県認定の発達障がい者支援専門員SVの先生方に毎回来ていただいて相談会や勉強会をしていました。現在は設立当時の会員の子供たちは高校進学や就労を経験し、内容がより「自立」に向けたことに移ってきています。ただ最近、LDの診断を受けた年少の子どもさんの保護者からの問い合わせが増えたため、また「学習」についてなどへ見直しています。今年度は新たな取り組みとして2ヶ月に1度の定例会と、定例会のない月には一般向けに無料お話を会員の協力を得て行う予定です。支援を受ける機会の少ない通級や、支援学級所属ではない子どもさんの保護者の方の困り感に寄り添いたいと思っています。

**くまもと発達支援親の会めだか「震災を体験して」** 4月14日の震度7の前震、続く16日にも震度7の本震と2度の大きな地震を体験しました。突然の揺れに立つこともできず、地震が収まって辺りを見渡すと、壁紙が裂け、食器類は割れ、物が散乱した状態でした。避難所生活は発達障がいのある子や高齢者を抱えては断念せざるを得ず、余震に怯えながら家で生活するケースもありました。学校は約2週間休みになり、聴覚優位な子ども達は落ち着かず、ちょっとした音や揺れに敏感になりました。そんな時、西日本新聞を通して当会に調音パネルを無償提供して下さるメーカー、AURAL SONIC社と出会いました。避難所で周りの雑音を遮断した空間を作る事ができ、安定した生活を送れました。避難所閉鎖後、教育委員会から提案があり、支援学級でそのパネルを試用中です。またこの震災で支援制度の枠組みに入っていない発達障がいの方に相談の場がないことも問題になりました。緊急的にSNSで呼びかけ、相談の場を立ち上げるという例もありましたが、一部地域で設置されているコミュニティソーシャルワーカー(CSW)のような制度があれば、既存の福祉サービスだけでは対応困難なケースも円滑に解決できるのではと感じました。

震災後、たくさんの方々のご支援を頂きました。総会翌日の全国LD親の会フォーラムでも義援金を呼び掛けて頂き、とても勇気づけられました。皆様の温かいお気持ちにこの場をお借りし、お礼申し上げます。

## ●NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 12月16日 文部科学省 発達障害に関する体制整備のガイドラインについてのヒアリング(斗内沢)
- 1月10日 サポートツール全国キャラバン 2015「教材教具研修会」in 名古屋(多久島)
- 1月10・11日 ボランティア支援員養成講座(北九州)(梅野・奥野)
- 1月18日 JDDnet に発達障害者の金融機関利用について意見提出
- 1月25日 全国特別支援教育推進連盟第4回常任理事会(多久島)
- 2月4日 特別支援教育ネットワーク推進委員会(東條)
- 2月5日 全国特別支援教育推進連盟第4回理事会(三輪)
- 2月20日 学び方の違う子の親の会ルピナス講演会(三輪・増田)
- 3月24日 全国特別支援教育推進連盟へ年報原稿送付(多久島)
- 3月27日 JDDnet 理事会(東條)
- 4月22日 JDDnet 2016年度各省庁宛に提出する『政策提言(案)』に要望提出
- 4月26日 文部科学省・厚生労働省へ平成29年度予算要望送付
- 4月26日 全国特別支援教育推進連盟第1回常任理事会(多久島)
- 5月5日 第28回理事会(みなし決議)
- 5月8日 2015年度事業監査(丹藤・内藤)
- 5月13日 全国特別支援教育推進連盟第1回理事会(三輪)
- 5月14日 JDDnet 理事会(東條)
- 5月27日 第5回JD総会(井上)
- 6月1日 全国特別支援教育推進連盟臨時常任理事会(多久島)
- 6月18日 NPO法人全国LD親の会 第9回総会、青年の交流会、研修会、懇親会
- 6月18日 第22回評議員会、第29回理事会
- 6月19日 NPO法人全国LD親の会第15回公開フォーラム(オリンピック青少年センター)
- 6月19日 JDDnet 代議員会総会・理事会(公開フォーラムと重なったので、総会は委任状提出、理事会は欠席)
- 6月22日 全国特別支援教育推進連盟へ文部科学省・厚生労働省平成29年度予算要望提出
- 6月28日 全国特別支援教育推進連盟第2回常任理事会(多久島)
- 6月28日 東京都に平成27年度の活動報告書提出
- 7月5日 全国特別支援教育推進連盟第2回理事会(梶山)
- 7月13日 全国特別支援教育推進連盟臨時常任理事会(多久島)

## ●第28回理事会報告

日時:2016年5月5日(木・祝) 17:00-19:00

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志

[審議事項]

- 1.平成28年度の活動方針及び予算を全員一致で承認した。
- 2.第9回総会に付議する平成27年度事業報告(案)・決算報告(案)、平成28年度役員(案)を全員一致で承認した。

## ●第29回理事会報告

日時:2016年6月18日(土) 20:30-21:00

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志

[審議事項]

- 1.第22回評議員会における審議結果の承認:第22回評議員会における審議結果を審議し、全員一致で承認した。

